

* * * *

ウツギ属 (*Deutzia*) のマルバウツギ (*D. scabra*) とウツギ (*D. crenata*) 及びバイカウツギ属 (*Philadelphus*) のバイカウツギ (*P. satsumi*) の胚嚢形成過程の調査を行った。胚珠はマルバウツギとウツギでは半倒生 (hemianatropous) で、バイカウツギでは倒生 (anatropous) である。珠心は3種とも1枚の珠皮でおおわれ、薄層型 (tenuinucellate type) である。胚嚢は3種とも単胞子性8核タデ型に従って作られる。この過程で4核期の胚嚢の珠孔端は著しく伸長し、長い珠孔を抜けて胚珠の外に出る。バイカウツギでは珠孔端が胚珠の外に出るだけであるが、マルバウツギとウツギでは胚珠の外に出る部分は胚嚢のおよそ半分にも達する。胚珠の外に出る胚嚢は極く限られた属でしか知られておらず (Maheshwari 1950, Johri 1963), ウツギ属とバイカウツギ属に共通するこの特徴は、両属の近縁性を示す特徴の一つと考えてよいであろう。

バイカウツギではしばしば2核期と4核期の胚嚢で合点側の核が珠孔側の核よりも早く分裂し、反足細胞もしばしば非常に早く退化する。マルバウツギやウツギでも、また今までに調査されたユキノシタ科 (広義) の他の植物でもこのような現象は知られていない。これはバイカウツギに独特な現象と思われる。

□小室 健：奥久慈の植物と自然の風景 224 pp. 1984. 奥久慈植物研究友の会、茨城県大子町。¥20,000. 奥久慈は茨城県最北の地方で福島・栃木両県に接した景色のよいことで知られた山国である。小室氏はその中心地大子町の人で、長い間植物の調査を続け、現在も同地の植物研究友の会の会長である。この本は同氏の45年にわたる成果の集大成だということ、次のような内容である。八溝山・袋田と男体山・西金砂山・矢祭山・竜神峡・三鉢室山・湯沢峡・鍋足山の各地区ごとに、地域の概観、植物のリスト、その地の特記すべき植物のカラー写真入りの説明、次いで奥久慈の天然記念物、特産物、風景、植物化石など、最後に野鳥・昆虫・哺乳類などにも及んでいる。A4判の大形のもので3段組になっており、百科事典のように紙面が充実している。写真は全部カラーで約1,800枚、5.5×4 cm と小形ながら花の大写しも生態もよく特徴が出ていて印刷も優秀である。こんなに豊富な資料を、あえて今流行の豪華版植物誌の形を取ることなしに、一巻物にまとめた見識と手際の良さは大いに称賛されるべきことだと思う。また全巻を通じて学名が1個も出ず、和名だけで処理されているのもおもしろい。この方面のフロラを調べるのにも、図鑑的に手取り早く植物を知るのにも便利な本である。

(伊藤 洋)